



去年から春に「ボランティア出会い市」を商店街で開きたいと。きっかけはあるNPO団体のボランティア不足の話からでした。「ボランティアとボランティアをしたい人が出会えたら」「通りがかかっているボランティアの

活動を「参加したいけど、どこに行けば？」などなど、ふだん気にされている活動に偶然出会うのもいいな。従来はボランティア団体をグラウンドやホールに集めるパターンが多く参加者の多くはボランティア関係者になりがちです。そんなことから広く広報ができる空堀商店街は会場にうってつけ。商店街の会長さんにお願ひに行きました。次は、こんな企画をしたいと大阪府社会福祉協議会の担当者。

12月に多くのボランティア団体に声を掛けようとする1回目の話し合いをしました。中央区社会福祉協議会、大阪市ボランティア情報センター、大阪府ボランティア情報センターとユニテッドトウモロウの尾関さんが参加くださいました。3月からは具体的に開催に

向けて活動開始。商店街のシャッター前を借してくださるとお願いに行きました。50店舗の了解をいただきました。そして、つり広告を商店街に「5月10日ボラ堀商店街になる」と準備が進んでいきました。

5月10日は晴天に恵まれ35団体が朝早くからからほりさんらに集合。ミーティング終了後、各団体は持ち場に散っていききました。10時から出会い市が始まりました。聴導犬が来ています。子供の手作りコーナーを出しているフィランソロピー懇話会、のぼりを立て日赤のボランティア団体。高齢者外出介助の会や空堀まちなみ井戸端会など地域の団体。昼から着ぐるみのクマさんや大阪城から甲冑隊、空堀の町歩き。丸与さんでは午前中田中やすこさんの「私の空堀」昼から落語もありました。からほりさんでは発起塾の「発起塾版シンデレラ」歌に踊りに50歳以上80才の皆さんが楽しそうに歳を感じない動きです。それぞれ



佳子

たいとその場で入会をされた方もあったようです。来られた方も、「いい企画で嬉しい。こんなのがあればいいなあと思っていたけどその通りの催しで嬉しい」と感想を語ってくれました。

終了後の茶話会で「頻繁にしてほしい」「来年も」など前向きな参加団体の意見でした。当日快く商店街前を貸していただいた商店の皆様ありがとうございました。お陰様で楽しい一日ボラ堀商店街にもなり実りの多いイベントでした。(高齢者外出介助の会 永井 佳子)

「ボランティア出会い市」開催

からほり新聞

第34号
(2015.6.29)

「空堀界隈を散策される皆様へ」

- ◆路地の奥は私有地が多いのでご注意ください。
- ◆美しい石畳や木造家屋に「ミ」は似合いません。
- ◆商店街は生活の場でもあります。節度とマナーで笑顔が増えます。

会のお知らせ

当会は寄付が主な活動資金です。この度イオグループのKOHYO空堀店様のご支援を頂くことになりました。毎月11日黄色のレシートを備え付けのボックスに入れて頂くと売り上げの1%が高齢者外出介助の会に還元されます。皆様ご協力お願い致します。

- ◆**隆祥館ブブ・ド・ラ・マドレーヌ トーク**
7月3日(金) 19:00~21:00 隆祥館5階 参加費:1500円 演出家・大岡淳、サクソ奏者・樋野展子 問い合わせ:06-6768-1023
- ◆**田中キッズクラブ**
七夕笹飾り短冊してます。7月7日まで 短冊書きに來られませんか 問い合わせ:090-5369-9209
- ◆**かみなり亭**
笑福亭一門落語会 7月11日(土) 開場18:00 開演18:30 喜怒銭:当日1500円 葉業年金会館 問い合わせ:06-6768-3549

お買い物は空堀商店街で

お年寄りの皆さんが、住み慣れた町で楽しく充実した暮らしが続けられることを願って、支援活動や暮らしの潤いになる様々な企画を推進しています。

- ◆**高齢者外出介助の会** からほりさんらにぜひお越しください。月~金10時~17時まで空いています。
◆**人形作り**▶毎週金曜日▶13:00~15:00▶参加しませんか?▶材料費1500円▶問い合わせ:06-6764-4002
- ◆**認知症講演会** 認知症講演会「知って、感じて、支えて」
▶7月30日▶14:00~16:00▶中央区民センター▶問い合わせ:06-6763-8139 もも(中央区社会福祉協議会)
- ◆**桃園会館**
◆**たなばた作品展**▶7月6~7日(月、火)▶13:00~16:00▶問い合わせ:06-6762-5599
- ◆**島之内図書館**
◆**子供のためのお話を楽しむ会**
▶田中やすこ▶17月31日(金)▶AM11:00~12:00▶昔話などの楽しいお話を素語りで届けます。▶問い合わせ:06-6211-3645

☆編集後記

◆なんと歳をとると1年が早いこと! もう1年の半分です。お正月がもうすぐ!(ケラ子)
◆洗濯物が乾きやすくて助かる季節です。(岡田)
◆今年も半年過ぎました、どんどん時間が速くなっている! 残りを意識しました、今日この頃です。(やまな)
◆7月末から「大阪市内で買える商品券」が使えることになりました。が...この商品券がどんなものなんだろう? 中小企業や地元のお店街が元気になるきっかけになればいいなと思ってます。ひとまず、勉強です!(のぶ)

特定非営利活動法人
高齢者外出介助の会とは?
お年寄りの皆さんに、より楽しく充実した日常生活を過ごしていただくため次のような活動をしています。
①外出介助(買い物、お墓参り、通院など)
②暮らしサポーター(買い物、薬取り、入院時支援など)
③車椅子貸し出し(お気軽にご利用下さい)
④生きがい作り講座(童謡・唱歌を歌う会、布ぞりなど)
⑤ハーモニカ教室
⑥「からほり新聞」制作
お気軽にお問い合わせください。
大阪市中央区松屋町4-8 メイツ松屋町1階
TEL&FAX 06-6764-4002
月~金(10:30~15:00)
E-mail: odekake@helen.ocn.ne.jp
ホームページ: odekake-karahori.com

「からほり新聞」は高齢者外出介助の会に集う有志が、愛する「からほり」の賑わいを願って作っている無料のコミュニティ紙です。ご意見・ご感想投稿イベント情報などお待ちしております。また、「新聞置いてあげてもいいよ」とおっしゃってくださいのお店も大募集。
「からほり新聞に参加したいな」と思われる方、大歓迎です。気軽にご連絡ください。(現在55カ所設置)

からほりさんで健康法しています!

第3水曜日 **タッチフォウヘルス**
自分の体は自分で治そう

第4金曜日 **健康体操**
椅子に座ってする健康法で誰でもできます。

古典・現代邦楽など、どの分野でもお教えます

生田流 箏・三絃 九州流

講師: 門脇 裕子

◆稽古日: 相談 ◆月謝: 5,000円
◆お問い合わせ: 080-3117-6684

か ら ほ い 界 隈 お 散 歩 M A P

皆様のからほり地域の
情報をお知らせください！

長堀通

⑤ ⑥
谷町六丁目駅



其の30 ～空堀かるたでお散歩～

「空堀かるた」は、からほりを紹介する「かるた」があるのをご存知ですか。「空堀まちなみ井戸端会」で作成した「空堀かるた」です。

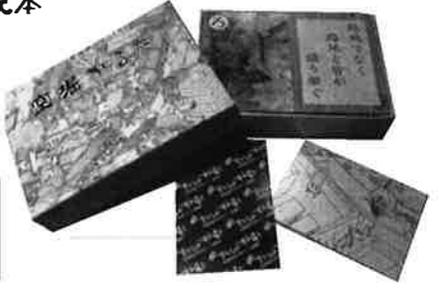
今回はそのかるたの札から8枚ピックアップしてお散歩マップを作成しました。かるたと似たアングルの写真が撮れるかなと思ってカメラを持って出かけましたが、高津原橋は上から撮るのが難しかったのと夕日の写真がうまく撮れそうになく、平面からの撮影となりました。「へつついさん」は、釜戸グイニングの「縁」さんで写させてもらいました。「ちんどんや」は、からほりさんんの前に来られた東西屋さんを写しました。「空堀まちなみ井戸端会」は応援団を募集しています。かるたを買ってぜひ応援してください。

取 材・河野いづみ
MAP作成・山本のぶゆき



◀空堀かるた解説本
(500円)
空堀かるた▶
(2,000円)

協賛金の一部によって、空堀のまちなみの維持や活用に貢献して頂けるしくみになっています。



夕日が見える
高津原橋



冠木門
空堀まちなみ
たからもの



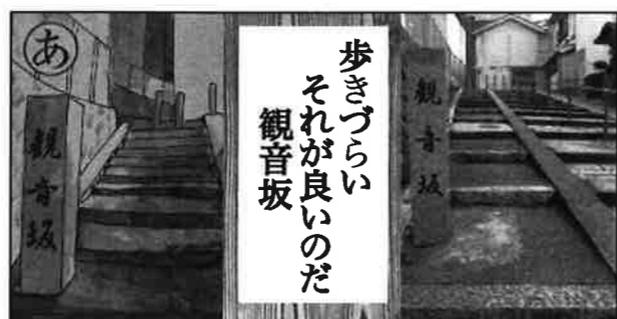
五十軒筋
昔は鉄砲同心
屋敷町



笛太鼓
おどり声だし
ちんどんや



まつちやまち
おもちゃのお店
立ち並ぶ



歩きづらい
それが良いのだ
観音坂



へつついさん
昔の煮炊きは
薪くべて



れつをなし
熊野街道
旅の人

空爆の恐ろしさや飢えを体験

〔松田 登さん 昭和四年生〕

今年で早や戦後七十年、長い年月が過ぎて、なお戦争の思い出がつい先ごろのように思い出せるのは、当時の印象がかなり強烈であったことを物語っています。

昭和十六年十二月第二次世界大戦勃発のとき、私は旧制中学校の大阪市立工芸学校一年生でした。

その頃はといった戦争はどこで？といった感じで過ごしていましたが、二年生後半になりましたが、二年生後半になりクラスの中から次々と予科練に志願する級友の送別会が開かれるようになりました。といっても、



当時の学生服（軍服姿）

担任の先生を中心に学校の正門前で記念写真を撮っただけです。勿論私たちも学徒動員として毎日平野にある軍需工場で旋盤やフライス盤の作業で油だらけになって働いていました。母が煎ってくれた大豆三十粒ほどを紙に包みポケットに入れて、歩きながら口にするのが朝飯です。工場に行けば麦飯の昼食が食べられるので、それが唯一の楽しみでもありました。昭和二十年三月十三日の夜、東区粉川町に住んでいた私たちは空襲だと慌てて表に飛び出した途端、バリバリという大きい

音とともに私の家の二階からは舌のような真つ赤な炎が、そして逃げようとしても道がブスブスと燃えています。やっと正気になり我が家に戻ると思わずに幼い弟や妹たち四人を連れて逃げていました。父はよほど慌てていたのか、水も出ないよじれたホースで水を掛けようと玄関におり結局私と二人で炎の中から持ち出せたのは自転車と下駄箱だけでした。後日知人から聞いたのですが、私たちは東方向に逃げたので助かったが、西の方に逃げた人たちは周りが火の海だったそうで亡くなられた人も多かったそうです。戦災はまだ続きます、六月一日の空襲でした、大阪がまた焼かれたと聞き動員先から帰ろうとしたが、電車はすべて動いていない、と言って一般道は焼きぼつくりで歩けない、現在の環

状線（当時は城東線）の天王寺から玉造までレールの上を歩きました。玉造の階段を降りた途端、そこはまさに生き地獄でした。累々たる死体やがれきの路を踏み分け歩きながらふと目にしたのが防火水槽の中で幼い子をおんぶしたまま亡くなっていた母子の姿でした。

更にまた、終戦の前日で森ノ宮にある軍需工場の空襲です。三月一三日の夜にも全焼してからは転々として森小路に落ちていたばかりの私達でしたが、今にも頭の上に落ちてきそうな「ビュードカン」という爆弾の恐ろしい音と地響きで生きた心地もありませんでした。

戦後予科練に行った友人たちは無事に生還したものの、その中の一人は帰郷後特攻隊として出撃した事ばかり夢に見て苦しく、以後写経を続けたと言っていました。

その彼も今から数年前に亡くなり、戦争の事をお互いに語る友も少なくなつて、大変残念に思っております。

伝えたい | まちの記憶 | 戦争の記憶



代理のそば

高齢者外出介助の会
事務局長 永井佳子

電話で「〇〇日、空いていますか？」期待と不安な気持ちのまま「確かめるね」スケジュールを確認しました。空いてます。「幼稚園の食事がああるので〇〇と一緒に行ってくださいませんか？」えっ！あなたは？「あいにく仕事で一緒に行けないのです。」

お母さんの残念さが伝わります。私でいいのかなと思いつつも、声をかけてもらったことに感謝しました。今年幼稚園に入った〇〇ちゃんはさろんに生後数カ月で遊びに来ました。そのとき、お祝いの大きな座布団にななめに寝かせても余ってしまいました。その彼女が今年入園したのです。さろんに来るたびに、動きが大きく、這い出し

て床を掃除しているように思える時期もありました。そして、テーブルから頭がでて顔が出て、だんだん大きく健康に育つて、私たちを楽しませてくれました。そのうち妹が生まれ、また一段とお姉ちゃんになって、子育て時代を懐かしく思い出したり。

お母さんがちょっと仕事に行くとき、数回預かりましたが、お母さんを追って大きな声をあげ、見えなくなると泣き止んで賢く帰りを待っていたこともありました。その姿がまたかわいくて。こんな関係を信頼して今回の依頼をもらったことに感謝。当日は〇〇ちゃんと楽しめたら最高と今から楽しみしています。



この新聞を発行している「高齢者外出介助の会」の総会の後、残った数人でお茶を飲みながら雑談になり、話はいつしか「終活」のことに。

街のおじさんから

高齢や障害で車いす生活になることは誰にでも起こるかも。でも車いすからは世の中がよく見えてくる。そんなおじさんの考えたことを連載で。

いき、尽きません。田舎のある人は「親戚や世話役が勝手に進めて、家族はモノが言えない」とか「やっぱり仏壇に位牌があって、家族に手を合わせて欲しい」とか、出身地や家族観によって考え方が大きく違います。はっきりしているのは、本人が元気な内に、家族と話し合っておき、自分の希望を家族に伝えるだけでなく、一族のうらさ型に口出しさせないように。でも、「お父ちゃん一人残ったらカナンわ」と娘達は言っている、と！

これは他人事ではありませんが、今わの際の枕元で相談されないように。やり方があるよ！話はどう広げて



地域の福祉、みんなで参加

●地域の福祉の充実に、みなさまのご支援をよろしくお願い致します。共同募金は、10月1日～12月31日の期間ですが、年間を通じて寄付金を受付しています。●大阪府共同募金会事務局は、谷町7丁目交差点を信号1つ西入ルの大阪社会福祉指導センターの2階にあります。どうぞよろしく。●ホームページをぜひご覧下さい。http://www.akaihane-osaka.or.jp

からほり新聞に広告を出しませんか

①1コマ 縦49mm×横79mm 3,000円

②1コマ 縦33mm×横79mm 3,000円

(2回連続で掲載の場合は5,000円)

* 原稿、データ(ロゴ等)をいただきましたら、こちらで作成させていただきます。

連絡: TEL・FAX06-6764-4002

広告掲載のお願い



日本の伝統芸能である狂言は通常・2、3人で上演され、15分から20分の短い演目がほとんどです。能楽堂と呼ばれる劇場

にある能舞台上で上演され、登場人物は大名、太郎冠者、山伏など室町時代を代表する人物たちです。同じ演目でも役者によって表現、間合い、呼吸が違ふため、その日に演じる役者によって全く違うように見えるそうです。空堀からはどちらも谷町4丁目駅が最寄りの大槻能楽堂と山本能楽堂で観覧できます。

狂言の魅力はなんといっても笑いのある喜劇で、庶民の味方だったということ。「狂言が栄えた時代は厳格に階級が決められ、権力者に逆らうことを許されなかった。だから庶民たちは

直接批判できなかったことを笑いに変えて権力者を攻撃して笑い飛ばした。どうしようもない気持ちや笑って解消させるといった役目もあったんでしょね」と金久さん。

狂言を始めたのは大阪芸術大学の舞台芸術学科1学年の時。授業で狂言を履修し、そのまま稽古に4年間通い続けました。大学を卒業後、一度劇団四季に入団したものの直ぐに止めて狂言の道を選んだそう。

「体一つで勝負する狂言の日本人にびったり合う声、呼吸、身体性、音楽性、ことばの美しさ、それを感じ取ったんです」。

その後、金久さんは大蔵流狂言方楽師として国内外の舞台で活躍し、来狂言の道を歩んで20年になります。7年前から大阪市立咲くやこの花高校演劇科で講師を務め、日々、狂言の演劇的・教育的な可能性を感じているそうです。そして、金久さんはもっと多くの人に狂言の素晴らしさを体感してほしい為に教室を開講しました。

まっちゃんち狂言教室

講師/金久寛章(大蔵流狂言)
開講日/毎月第2第4金曜日19時~20時30分
場所/多目的レンタル空間A space
(瓦屋町2-16-4 荒川ビル2階)
受講料/5000円(月2回分)年会費1000円
体験は随時。
問合せ: glaucoma@xj9.so-net.ne.jp

今回は空堀から少し離れた瓦屋町で4月から「まっちゃんち狂言教室」をしている金久寛章さん。狂言という室町時代に栄えた伝統的な芸能を受け継いだ一人です。

快傑!からほり人 快傑ファイル其の二十八 日本伝統芸能の継承者

大蔵流狂言 役者講師 金久寛章さん

た日本人としての感性を磨けば、人としての確かな土台が作れる。日本の伝統芸能に触れる機会が無かった人たちと狂言を通して、ものの考え方や人との接し方を一緒に探りたいです」

そんな金久さんは背筋をぴんと伸ばし、やわらかく自然体でも隙が無い、さすが舞台俳優。とてもまじめで、謙虚な金久さんの本物の日本伝統芸能を学びに、ぜひ教室に訪れてみてください。(岡田由佳子)

編み物は時間が形になる

谷町筋の東側の商店街に毛糸と手芸のお店がオープンしました。100色ある毛糸が並んでいる様は壮観です。毛糸以外にもミシン糸、刺しゅう糸、カラフルなファスナー、羊毛フェルト手芸のキットなど、素敵な素材がたくさん。手芸店が空堀になかったので、この品揃えは嬉しいですね。店内では編み物講習会も行っています。編み物が初めての人のためのコースや、小学生以上を対象とした

ジュニア手芸のコースもあります。また、高齢で目が見えにくくなったとか、細かい作業ができなくなったという人のために「健康手芸」の材料もあります。ネットに刺していくだけの簡単な編み物で、老化防止に効果があるそうです。「テレビをぼーっとみても何も形にならないですが、編み物なら時間が形になりますよ」と店長の館さん。ニットに関するご相談はお気軽にどうぞ。

amu*amu



中央区谷町6-3-12
電話06-6777-8119
定休日は日曜日
営業時間10:00~18:30

ステキな空間見つけた!

「惣」を南へ下ってT字路を西へ入るとウッドデッキやコンテナがある不思議な空間があります。その奥に、1月に開店した焼き菓子とナッツとドライフルーツのお店「杏(anzu)」があります。10:00~12:00まではホットサンドのモーニング、午後はカフェを利用できます。店舗になっている部分はもともと倉庫だった場所なので天井や配管が

見えるしゃれた空間です。隣の設計事務所と一体の店舗デザインなので建築に興味がある人にもおすすめの場所です。

中央区瓦屋町1-4-15
電話06-6710-4598
定休日火・水
営業時間: 10:00~18:00
www.anzu.co

杏(anzu)



「本当にいい革」を伝えていきたい YES CRAFTS

桃園幼稚園近くにある、革の工房「YES CRAFTS」さんを訪ねました。長屋を改装した空堀らしい工房です。店長の近藤さんは「栃木レザー」の良さを広めたいということで、四天王寺の老舗の革屋さんから独立して「yes」ブランドを立ち上げました。

一枚の革は傷や色ムラなどがあって、大きなパーツで使うと、無駄ができるのですが、全部の革を大事に使う、傷や色ムラもデザインであるという考え方から、まずは四角いパーツに切ってそれをつなぎ合わせると

いうデザインを生み出しました。この革でできたバッグは使うほどあめ色になっていい味わいが出るといいます。また中の荷物になじんで自然にマチができてコロンの形になるということです。

商品は全国のセレクトショップやインテリアショップなどを中心にお買い求めいただけます。

今後はピースを組み合わせてお客様のオリジナルのバッグなどを作ってもらイベントを開催したいとのこと。ステキなバッグが生まれそうですね。



中央区谷町6-6-21
電話06-6761-6810
www.yes-craft.jp